

二二一〇番

人^{ひと}皆^{みな}は 萩^{はぎ}を秋^{あき}と言^いふ よし我^{われ}は 尾^お花^{ばな}が末^{うれ}を
秋^{あき}とは言^いはむ

二二一一番

玉^{たま}梓^{づき}の 君^{きみ}が使^{つか}ひの 手^た折^をり来^ける この秋^{あき}萩^{はぎ}は
見^みれど飽^あかぬかも

二二一二番

我^わがやどに 咲^さける秋^{あき}萩^{はぎ} 常^{つね}にあらば 我^あが待^まつ
人^{ひと}に 見^みせましものを

二二一三番

手^てもすまに 植^うゑしく著^{しる}く 出^いで見^みれば やどの
初^{はつ}萩^{はぎ} 咲^さきにけるかも